

1923年関東地震後に生じた流言による埼玉県北西部での人々の混乱

Confusion of the people in the northwestern area of Saitama Prefecture due to rumors after the 1923 Kanto Earthquake

*篠田 海遥¹

*Miharu Shinoda¹

1. 栄東高等学校

1. Sakae Higashi High School

1923（大正十二）年9月1日に発生した関東地震では、埼玉県熊谷市、本庄市、上里町、寄居町、深谷市といった県の北西部における揺れによる被害はほとんど報告されていない。その一方で、地震の1～2日後に生じた流言により人々が大きく混乱し、その結果として多くの朝鮮人が犠牲となってしまったという記録が残っている。本研究では、現地に残されている石碑や文献資料の調査により、当時発生した流言についての詳細を追跡し、原因を考察した。今後起こりうる地震等の災害時に、流言による人々の混乱という人的災害の発生の回避に活かすことを目的とした。

石碑に残されている記録の1つとして、熊谷市熊谷寺の大原墓地（熊谷市大原2丁目4）に建てられている「供養塔」の裏面に、当時の状況が記されている（図1）。碑文には、東京方面で突如発生した関東大震災が、何万人もの人名と何百億円もの財産が一瞬にして奪われる未曾有の大災害であったことが述べられている。流言に関しては、交通機関や通信機関が一時途絶えてしまい、多数生じた流言の真偽を確かめる手段がなかったことや、震災の惨状による人々の不安が流言を広げてしまったことも明記されている。この供養塔は、熊谷市（当時の大里郡熊谷町）内において犠牲になった人の慰霊と、当時の状況を後世に伝えるメッセージボードの役割を担っている。

また、流言が広まっていく過程を詳しく紹介している貴重な資料の1つとして、松原（2013）を挙げられ、事件の発生に至るまでの経緯を表1のように追跡できる。「供養塔」にも記されているように、9月1日の関東地震の発生直後には、東京方面の鉄道や電信は遮断されてしまい、東京では1つの新聞社のみが地震による被害を免れた。9月3日に発行された号外に、東京で最初に発生した流言が「不逞鮮人各所に放火し 帝都に戒厳令」等と掲載されてしまった。また、埼玉県の浦和から熊谷方面へ通じる高崎線は運転されていたため、東京方面から徒歩で浦和までたどり着いて列車で熊谷方面へ避難をする人々から流言が広げられた。その結果、埼玉県北西部域に住んでいた朝鮮人や東京方面から避難をしてきた朝鮮人が多数虐殺される事件に発展し、熊谷市と本庄市では合わせて150人程が犠牲になったとされている。

流言が伝播してしまう要因について廣井（2001）には、流言についての本質的特徴5つ（少なくとも数人の口を経る連鎖的コミュニケーション・秘密の色彩を帯びた口コミの情報・推測に基づく事実の確証は無いまま語られる情報・情報内容の歪曲・恐怖や不安といった伝える人々の感情）が述べられている。また、流言が広く伝播されやすいのは、自身の生活に関わる重要性和情報が不足した状態の曖昧性という両方の条件が揃った場合であると紹介されている。大きな災害の発生直後にはこのような条件が揃い、流言の本質的特徴が顕著に現れやすいと述べられている。流言の発生は本研究で調査を進めている関東地震の発生後だけではなく、1854（嘉永七）年の安政地震や1891（明治二十四）年の濃尾地震、1991（平成三）年の雲仙普賢岳の火砕流といった大きな災害のたびに流言による被害が繰り返し起こっている。

このことから、流言は今後起こる災害でも発生し得ることを知っておくべきである。今日ではSNSも発達し、誰もが即座に情報を発信することができるようになった。そのため、その分だけ流言も発生しやすくなった。だからこそ、これまで以上に日頃から日常生活で得られる様々な情報の信憑性について考える必要があり、緊急時には流言に迷わされることのないように冷静に対処するべきである。

キーワード：1923年関東地震、流言、埼玉県北西部

Keywords: The 1923 kanto Earthquake, False rumor , The northwestern area of Saitama Prefecture



【「供養塔」の裏面に記されている碑文】 /は改行部分を示す

噫大正十二年九月一日午前十一時五十八分突如帝都ヲ中心トシテ勃
 發シタル大惨禍関東大震災ハノ瞬時ニシテ幾万ノ生靈ト幾百億ノ財貨
 トヲ奪ヒ去リシ振古未曾有ノ大惨害ナリキ當時我國ハ歐州ノ大戦ノ影
 響ヲ受ケ國內景氣ハ非常ナル好調時代ニ在リ一般ニ放縱ト贅澤ノ弊
 ヲ露呈シ吾世ノ春ノヲ謳歌シツヽアリシ時ナリシカハ恐怖モ一入大ニ狼
 狽又甚シカリシナリ一時全ク交通機関ハ素ヨリ通信機関ノ杜絶流言
 蜚語ノ百出其真相ヲ知ルニ由ナク或ハ此儘暗黒世界ヲ現出スルニアラ
 サルノナキヤヲ思ハシムルノ状態ナリキ此事實ヨリ災後ノ國民ハ俄然強
 キ反省ニ目覚メ此惨害ハ天ノ下ノシ給ヘル戒ナリ天譴ナリトシテ異常
 ナル緊張ニ立戻リ専ラ復興ノ氣魂ニ燃ヘ懸命ノ努力ヲ奮ヒ極ノメテ迅
 速ニ其實ヲ舉クルヲ得タリシモ此災禍ノ為ニ犠牲トナリシ多クノ生靈ニ
 對シテハ誠ニ痛恨ノ哀惜ノ情ニ禁ヘサル所ナリ本市ニ於テ遭難セル
 生靈ハ熊谷寺及圓光寺ノ兩墓地ニ埋葬シ季節ノ放養ヲ怠ラサリシモ將
 來其荒廢センコトヲ慮レ且ツ分葬シアルコトノ不便ヲ除カンカ爲メ今回ノ
 市内ノ有志胥謀リ兩墓地ノ遺骨ヲ一ニシ茲ニ熊谷寺墓地内ニ地ヲ相シテ本
 供養塔ヲ建立シ以テ生靈ノ瞑ノ福ヲ祈ラントス 犠牲ノ靈不慮ノ遭難慰
 ムルニ由ナシト雖モ此尊キ犠牲カ同胞國民ノ自覺反省ヲ促シ緊張堅實
 ナル風氣作興ニ寄興セル濟世ノ供徳ハ蓋シ大ナルモノアリト謂フヘク豈
 誰カ徒死ナノリトセンヤ聊當時ノ概況ヲ録シテ誌トスノ

昭和十三年七月 埼玉縣熊谷市長 勲六寺 新井良作書ノ坂群熊 水友勝 刻

図 1. 熊谷市熊谷寺の大原墓地に建つ供養塔(写真)とその裏面に記されている碑文

Fig.1 The photo of surface of the stone monument built in the Ohara Grave of Yukokuji Temple, Kumagaya City and inscription on the back.

表 1. 関東地震の発生から埼玉県北西部での事件が起こるまでの経緯

Table.1 Background to the incident in the northwestern area of Saitama Prefecture after occurrence of the Kanto Earthquake.

	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	9月7日
地震と震災	本震発生 (11時58分) 東京で大火災	大小の余震の継続					
東京から熊谷方面への交通機関	浦和以北の (現在の) 高崎線が運転再開			東京と埼玉の都県境の荒川鉄橋が開通			
東京方面から埼玉県北西部への避難	浦和まで徒歩でたどり着いた避難民が熊谷方面へ列車で移動			東京方面より鉄道を利用した避難が可能			
新聞社の動向	東京の新聞社は全て発行が不可能		東京の1社が流言を掲載した号外を発行			各新聞社が発行を再開	
埼玉県北西部に広がった流言		東京にて、「放火」等の流言が発生	埼玉県内にも流言が波及				
埼玉県北西部での事件		埼玉県内に在住していたあるいは東京方面から避難してきた朝鮮人の拘束		朝鮮人の虐殺 深谷市 (3日の夜より) 本庄市・熊谷市・上里町			上里町 寄居町 事件の終息